

令和7年度第1回岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

1 開催日時：令和7年9月1日(月) 10:00～11:20

2 場 所：ピュアリティまきび 3階「飛翔」

3 出席者：

○委員(五十音順、敬称略)

阿部宏史、沖陽子、小松満、澁谷俊彦、末石芳巳、高橋正徳、永富真理、藤木茂彦、藤原園子、吉田光宏/計10名

○事務局(県)

環境文化部次長、環境企画課長、脱炭素社会推進課長、環境管理課長、循環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員(計9名)

議題	岡山県環境基本計画(エコビジョン2040)の令和6(2024)年度進捗状況について
会議資料	別添資料のとおり

議事概要	
事務局説明	【議題】 (環境企画課長が資料に基づき説明)
【議題】に対する委員意見等	
委員  自然環境課長	<p>ナガエツルノゲイトウは、水田耕作にとって大変な脅威であると考えられるが、ナガエツルノゲイトウ対策に係る取組としてはどれが該当するか。</p> <p>また、ツキノワグマ対策として、ハンターによる発砲の責任や補償について報道されているが、状況を教えてほしい。</p> <p>ナガエツルノゲイトウ対策については、重点プログラム71「外来生物に関する普及啓発等の推進」が該当する。現在の状況として、倉敷市真備町の小田川で発見されたものについては、岡山河川事務所等と連携し、防除に取り組んでいる。また、矢掛町の水田で発見されたものについては、農林水産部で除草剤等による防除を指導している。同町の大渡川でも発見されているが、生育範囲を調査しているところであり、今後、</p>

委員	<p>専門家に除去対策について相談の上、対応していく予定としている。</p> <p>ツキノワグマ対策については、法改正により、今年9月から市町村長の判断で緊急銃猟が可能となったところである。国による市町村等を対象としたWEB説明会が開催されたところであるが、県としても机上訓練や実地訓練を行うなど市町村を支援していく。</p> <p>ナガエツルノゲイトウについては、農林水産省によって、除草剤による対応が言及されているため、参考にしながら、早め早めに対策を講じていてもらいたい。</p>
委員 循環型社会推進課長	<p>重点プログラム30「リサイクル関連法の周知・徹底」について、倉敷市にあるガス化溶融炉の稼働終了がリサイクル率にどう影響するのか。</p> <p>水島エコワークスが稼働終了したが、令和7年3月31日までは稼働しており、今回示している数値には影響しておらず、令和7年度の結果に反映される。単純計算では、この稼働終了によりリサイクル率は10%程度下がることとなるが、新たに稼働が始まった他の施設がリサイクル率上昇に寄与するため、全体としては10%までは下がらないのではないかと推察している。</p>
委員 環境管理課長	<p>重点プログラム46「大気汚染防止夏期対策の実施」について、現在の指標は「オキシダント情報等メール配信登録者数」であるが、光化学オキシダントにおける環境基準達成状況や被害報告状況が知りたいという方もいると思う。そのため、可能であれば、これらについて、資料3に記載してはどうか。</p> <p>県内の環境基準達成率は0%であり、全国的にも1局程度しか環境基準を達成できておらず、この評価方法が適切かを現在環境省において議論されている。被害については、岡山市内の学校で部活動中の生徒が被害を訴えたという報告を最後に、平成30年以降報告はない。</p> <p>今年度のオキシダント注意報等の発令日数は昨年度をすでに上回っている状況だが、メール配信サービスの周知等により注意喚起していきたいと考えており、資料3の記載についても、指標としている「オキシダント情報等メール配信登録者数」に対する記述とさせてもらっている。</p>
委員	<p>重点プログラム51「児島湖再生の推進」について、今後の課題と施策展開が、「見た目」や「イメージ」の改善に重きを置いているような記載となっており、水質改善の取組を諦めたように感じる。流域下水道の</p>

<p>環境管理課長</p>	<p>整備が順調に進んでいるなど水質改善に向けた取組のことも記載してはどうか。</p> <p>児島湖の汚濁の大きな原因であった生活排水については、下水道や合併処理浄化槽の普及により水質の改善が図られてきたが、これらも児島湖流域の約9割で普及してきている。こういった状況もあり、今後は大幅に水質を改善させるような取組は難しいが、実施可能な取組として、環境用水の導水を目指しており、導水に必要な水利権の許可を国から得たところであり、11月からの導水に向けて準備を進めている。</p> <p>資料3への記載については、COD等の数値というよりも見た目の色合いや透明度にも重きを置いた施策も実施しており、このような記載としている。</p>
<p>委員</p>	<p>『「見た目」や「イメージ」の改善に繋がる』という表現が曖昧で誤解を生むのではないかと考えられ、話に出た透明度に関する内容も記載されるとか、イメージについては、児島湖が多機能性を持っているということを前面に出して、多くの人に興味を持ってもらうというようなことが記載されていれば納得が得られるのではないかと思います。このような点を踏まえて、記載内容を変更いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>重点プログラム39「農業用使用済みプラスチックの適正処理の推進」について、達成レベルが令和5年度は1、令和6年度は3となっており、県や住民、関係者が取組を進めたということは感じるが、実際、河川や河口部には肥料殻がたくさん落ちている。達成レベルと現実との差を感じてしまうが、どうか。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>農林水産部の取組であるが、指標としている「農業用使用済みプラスチックのリサイクル処理率」は44.2%に上がったということで、達成レベルは3となっている。ただ、まだ半分以上はできていないということで、道半ばという状況である。今後も少しずつでも改善されていくように、農林水産部とも連携して取り組んでいきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>農業従事者と話をさせてもらう機会が多いが、農業従事者も気にしており、どうすれば減らしていくことができるのかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>リサイクル処理率44%ということは、どういうことか。半分以上は取組が進んでなくてもよいということか。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>2040年を展望しつつ、令和3年度から令和6年度の4年間での取組に対して目標を定めている。リサイクル処理率については100%に</p>

<p>委員 循環型社会推進課長</p> <p>委員 環境企画課長</p> <p>委員</p>	<p>達することが望ましいとは思いますが、現状も踏まえた上で、目標を定めて、評価しているものである。</p> <p>肥料殻であれば、回収は結構進んできているように思う。</p> <p>肥料殻が回収されている写真を見たことがあるが、草やわらと混ざってしまっている状態であり、回収が進んだとしても、リサイクルは難しいという面もあるのかもしれない。</p> <p>指標の設定として、リサイクル処理率ではなく、回収率の方が望ましいのではないか。</p> <p>回収率を数値として把握できるか分からないため、農林水産部にも確認してみるが、令和7年2月に改訂した計画でもリサイクル処理率を指標としている。</p> <p>ありのままの姿が数値に出るような指標とすることが望まれるため、今後の参考としてほしい。</p>
<p>委員 環境企画課長</p> <p>委員</p>	<p>重点プログラム81「地域課題解決ビジネスの支援」について、商工系の項目であるが、本計画に含まれているのは、なぜか。資料3に記載されている内容からも環境にどう関係しているのか読み取れない。</p> <p>産業労働部による取組であるが、環境にどう絡んでいるのかということも盛り込んだ記載にできるかを同部に確認してみる。</p> <p>地域課題解決型事業の応募者の中には、環境を目的として応募している者もいくらかはいると思われるため、そのことも念頭に置いて、担当部に確認してもらいたい。</p>
<p>委員 環境企画課長</p> <p>委員</p>	<p>環境問題を解決していくにあたっては、広域的・長期的な視点が重要である中、県がどのような役割を果たしていくのかが見えてこない。本日は、数値目標の説明のみであるが、県が取組推進にあたり、どのような役割を果たしていこうとしているのか教えてほしい。</p> <p>それぞれの市町村で取組を進めにくいものについて、方向性を示したり、広域的な展開を図ったりといったことは、県としての役割と考えている。市町村と連携し、同じ方向を見て取組を進めていくことは重要と考えており、こういったことを踏まえながら取り組んでいる姿がもう少し見えるように努めていければと思う。</p> <p>全体的な取組を進めていくためには、リーダーシップを取ることが重要である。計画で掲げている「横断的な視点」に関する取組をやるだけでは、県の役割や取組が見えにくいため、検討してもらいたい。</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>環境企画課長</p>	<p>市町村は、県の計画や施策を踏まえつつ、地域ごとの特色を出して取組を進めている。県と市町村が相互に情報共有を図っていることが、県民にも伝わるようなやり方を検討してもらえればと思う。</p> <p>現在、津山市では次期環境基本計画の策定に向けて検討を進めているが、計画策定にあたっては、国の動向や県の環境基本計画も踏まえながら、どのような取組を行っていくか検討しているようであった。県としては、県内の市町村環境基本計画に関する情報を収集するとともに、市町村と意見交換を行うなど、市町村の計画策定時に関わっていくこともよいことではないかと考える。</p> <p>重点プログラム4「地域ぐるみで進めるスマートコミュニティの推進」で言えば、西栗倉村や真庭市、瀬戸内市が地域特性を踏まえながら良い取組を進めている。指標に基づき評価すると達成レベルが1になるかもしれないが、県としては、県内のこうした優良事例を市町村との共有や県民への情報発信をすればよいのではないかと考える。</p> <p>県でも、これらの取組については把握しており、こういった機会に共有等していけるか、今後検討していきたい。</p>
<p>委員</p> <p>環境管理課長</p> <p>委員</p> <p>環境管理課長</p>	<p>重点プログラム50「工場・事業場対策の推進」について、排水基準違反があれば改善指導をしているということだが、指導により全てがその年度で改善されているのか、それとも年度をまたいで違反状態が継続しているようなものもあるのか。</p> <p>違反があれば、事業者文書指導を行い、事業者が改善策を講じた後に再度行政検査を行うことで、基準適合を確認している。ほとんどが指導によって改善されているが、中には複数年度にわたって違反が確認されるような事業場もある。</p> <p>違反が継続する場合には、行政指導を続けるだけでよいのかという話になってくると思われ、資料3を見ても、排水基準違反に対しては、「改善指導を行う」といった記載となっている。一方、重点プログラム47には「徹底指導等」と行政処分も含まれているものと解されるため、重点プログラム50も同様の表現とすべきである。</p> <p>ご意見のとおり、悪質なものなど行政処分を行うような場合もあり得るので、記載内容については修正する。</p>

<p>委員</p> <p>環境管理課長</p> <p>委員</p>	<p>P F A Sの問題については、記載が見受けられないが、県は定期的に検査等を行っていないのか。</p> <p>令和6年度までの計画にはP F A Sという言葉は出てこないが、有害化学物質に関する調査や公共用水域の常時監視で測定を行っている。</p> <p>なお、令和7年2月の改訂後の計画ではP F A Sに関する記載も追加している。</p> <p>来年度の計画の進捗状況報告では、P F A Sに関する記載も願います。</p>
<p>委員</p> <p>委員</p> <p>環境企画課長</p>	<p>重点プログラム88「景観行政団体となる市町村の拡大と連携強化」について、県には、各自治体の景観審議会の情報を収集するなど県内の状況把握に努めてもらいたい。市町村の担当者も手探りで景観行政を行っているため、県が収集した情報をもとに助言してもらえれば、市町村も心強いと思う。</p> <p>この数年で、県内4箇所でまち歩きを行ったが、その後に景観行政団体への移行までには至っていない。まち歩きに参加した住民からも自分のまちの環境・景色が大切であるといった声が聞かれた。また、まち歩きを開催した市町村の職員の意識は高かったが、マンパワー不足が最も大きい課題のようであり、支援や対策を講じていただければと思う。</p> <p>景観関係について、県では年に1回、市町村と会議を行うことで、情報共有を図ってきた、今年度は、景観行政団体に移行している倉敷市で実際にまち歩きも行いながら、移行によるメリットを景観行政団体に移行している市町村から伝えてもらおうと考えている。移行を検討している市町村職員が、すでに移行している市町村職員とつながりを持ってもらうことで、移行に対するハードルも下がればとも思っている。</p>
<p>委員</p> <p>環境企画課長</p> <p>委員</p> <p>環境企画課長</p> <p>委員</p>	<p>岡山県環境基本計画（エコビジョン2040）では、2040年まで4年間という短期的な取組を繰り返していくということかと思うが、その中で、枠組みや指標は変わっていくのか。</p> <p>適宜、見直しは行っていく。</p> <p>全体の指標のうち、4年ごとに変更を行う指標数に目安はあるか。</p> <p>計画改訂時に、指標の達成状況や新たな課題等を踏まえ、検討していくこととなる。</p> <p>このやり方を2040年まで続けていってよいのかと感じており、計画に経済や社会といった項目も盛り込んでいくべきではないか。市町村</p>

